

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ステップ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	①子どもたち一人ひとりの状況に応じた個別支援の実施 アセスメントや日々の観察、保護者からの聞き取りをもとに、子どもたちの特性に合わせた支援計画を作成し、個性を重視した支援を行っている。	①活動プログラムのチーム立案と内容の工夫 常勤職員による立案チームを設け、活動内容が固定化しないよう季節行事や子どもたちの興味関心を取り入れながらプログラムを作成している。	①保護者向け評価結果を踏まえた業務改善 今回の評価結果をもとに、支援内容や情報発信方法の見直しを進めていく。
2	②職員間の情報共有とチーム支援体制 朝礼や支援後の振り返り、支援者会議等を通じて職員間の共通理解を図り、チームで連携した支援を行っている。	②職員間の情報共有とチーム支援の強化 朝礼や支援後の振り返り、支援者会議等を通じて、子どもたちの状況や支援内容について共通理解を図り、チームで連携した支援を行っている。	②地域とのつながりの強化 自立支援協議会への参加を継続し、関係機関との連携機会の拡充を図る。
3	③保護者との丁寧な情報共有 送迎時のやり取りや連絡ツール等を活用し、日頃から子どもたちの様子や課題について保護者と共有し、安心して利用できる環境づくりに努めている。	③情報発信の充実 HPやSNS等を活用し、活動概要や行事予定等の情報を保護者へ分かりやすく発信している。	③保護者への情報提供の充実 安全計画や支援内容について、より分かりやすく伝える方法を検討し、保護者との連携を深めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	①保護者交流や家族支援プログラムの機会が十分ではない 現時点では保護者会やペアレントトレーニング等の実施には至っていない。	①事業所立ち上げ初年度であり、支援体制や運営基盤の整備を優先してきたため 日々の支援体制の安定化や職員間の共通理解の形成を優先してきたことから、地域交流や家族支援プログラム等の取組が十分に実施できていない部分がある。	①保護者交流の機会づくりの検討 小規模でも実施可能な形から交流の場を検討していく。
2	②地域との交流・外部連携の不足 地域住民との交流や児童発達支援センターとの連携はまだ十分に行えていない。	②限られた人員体制の中での運営 日々の支援や安全管理、送迎等の業務を優先して実施しているため、新たな外部連携や交流機会の創出に十分な時間を確保することが難しい状況がある。	②外部機関との連携強化 児童発達支援センターや地域資源との連携を段階的に進めていく。
3	③安全計画の保護者周知が未実施 安全計画に基づく取組内容について、保護者への周知が十分ではない。	③保護者向け評価や外部評価の活用がこれからの段階であること 今年度初めて評価結果を収集したため、評価内容を分析し業務改善へ反映していく取組は今後の課題となっている。	③職員研修の継続的な実施 内部研修やオンライン研修を活用し、支援の質の向上を図る。